

〈解答〉※解答の下線部は、正解作成時の^{ひつすかしよ}必須箇所となります。

1 (1) (例) 距離の制約を克服し、地球規模でお金や情報のやり取りが行われるようになること。

(2) A: 物資 B: アイデア C: 人

(3) イ

2 (1) A: ア B: エ

(2) (例) 意見交換や情報収集する範囲が世界レベルに広がることで、多様な考えに気づくことができるようになる点。(49字)

(3) (例)

私は、情報にまどわされないために冷静になって、情報分析をすることが必要だと感じています。昨年、新型コロナウイルスの感染が拡大し、きん急事態宣言が出されたころ、マスクが品薄になって価格が急に高くなりました。インターネット上では高値でマスクが転売され、私も朝早く薬局に並んでマスクを買ったこともありましたが、しかし、現在も自宅には多くのマスクが残されています。確かに、大変な時期だったので仕方なかったとは思いますが、もう少し冷静になっていれば、違う対応もできたのではないかと感じています。

問題文の図からは、多くの人がテレビやインターネットから情報を得ていることがわかります。私も同じように情報を得ていますが、これからは、新聞を読んだり、インターネットを調べる時も多くのサイトを比かくしたりするなどして、くふうして冷静に対処することが必要であると考えています。(371字)

〈解説〉

1 (1) 会話文と図表1～3は、グローバル化の過去・現在・未来に関する内容となっています。

この問題では、グローバル化とは何かについて問われているので、傍線部の前後から解答のヒントを探していきましょう。

☆解法のポイント☆

文脈の流れや構造、文と文との関係を表す単語や語句といった、「つなぎや論理の言い回しの言葉」を探しましょう。

この問題で探すキーワードは、「つまり」、「～である」、「～とは」といった「まとめの言い回し」です。傍線部以降の文章を探していくと、3ページの「会話文」10行目に「グローバル化とは、この制約を克服し、地球規模でお金や情報のやり取りが行われるようになること」とあるので、この部分が解答の中心部分となります。またこの文には、指示語（「この制約」）が含まれているので、指示語が何を指しているのか明らかにする必要があります。直前の文を確認すると、3ページの「会話

文」8行目に「距離が制約となって」という部分を見つけることができ、「この制約」とは「距離の制約」であるということが分かります。よって、この指示語の部分をはっきりと答えれば正答となります。

☆解法のポイント☆

指示語が何を指しているか明らかにしたいときには、直前の文からヒントを探してみましょう。

(2) この問題は、本文から空欄^{くうらん}に当てはまる適切な語句を探し出す、「空欄補充問題^{ぼんじゅう}」となります。解法のポイントは次の通りです。

☆解法のポイント☆

空欄の直前直後の表現を確認し、その後の文章から「似た言い回し」、「言い換え^かの表現」を探そう。

このポイントに沿ってヒントを探していくと、3ページの「会話文」11行目に、「制約は、第一に **A** を動かすコスト、第二に **B** を動かすコスト、第三に **C** を動かすコストの三つがあり」という部分が見つかります。

「第一に」という表現の言い換えを探していくと、4ページの1行目、「まず、物資の移動コストが低下したときにグローバル化の第1段階は始まったんだ」という文が見つかります。ここから、**A** に当てはまる適切な語句は「物資」であることが分かります。次に、「第二に」という表現の言い換えを探していくと、同じく4ページの10行目、「そして次に、1990年代からは情報通信技術の発展によって、アイデアの移動が可能となり、グローバル化は次の段階に入るんだよね」という文が見つかります。ここから、**B** に当てはまる適切な語句は「アイデア」であることが分かります。最後に、「第三に」という表現の言い換えを探していくと、5ページの1行目、「そして現在、グローバル化は新たな段階に進んでいるわ」という部分、さらに同じく5ページの4行目、「つまり、人が現地に移動するコストが以前よりも低くなるのね」という部分が見つかります。ここから、**C** に当てはまる適切な語句は、「人」であることが分かります。

(3) 傍線部の表現の例として誤っている問題を選ぶ問題です。解法のポイントは以下の通りです。

☆解法のポイント☆

傍線部の前後の文章を確認し、どのような具体例が正しい選択肢としてあり得るのか考える。

選択肢を読む前に、ぜひ一度、「どのような選択肢が内容として正しいか」考えて、本文を読んで考えてみてください。この問題の場合、傍線部「バーチャルワークの流れ」というものがどのよう

な働き方を指すか考えてみましょう。すると、5ページの5行目に「職場に行かなくても、工場に行かなくてもバーチャルで働けるようになると、労働者一人ひとりが別の国でサービスを提供するようなことが今後ますます当たり前になるのかな」という文が見つかります。この文と内容が大きく異なる選択肢が、正答ということになります。

イの選択肢は、「日本のアイデアをアフリカの国々が取り入れて、産業を発展させる」とありますが、ここでは「労働者が国を超えて働けるようになる」といった内容が入っていません。ゆえに正答はイとなります。

2 (1) この問題も、1の(2)と同じ空所補充問題です。そのため、A・Bはともに、1の(2)と同じ解法のポイントを使うことができます。

まず、本文(I)のAを含んだ文章を取り上げてみます。「『A』は実は、村人によって作り上げられたまやかしだった。外敵に怯える村人たちは、決して真実を見ないよう巧妙にコントロールされていたのだ。」これを見ると、映画『ヴィレッジ』の中では、村人たちは外敵に対する恐怖を植え付けられ、森に入ってはならないとの掟を守っていました。村人たちは、森の中にいる「外敵」を恐れているわけですから、Aには「外敵」と似た「モンスター」が入ります。

次に、Bについても考えてみます。Bを含んだ1文は、「だがそれはゆがんだ力が作り出した、幻想の『B』だったのだ」とあります。この空欄の前には「幻想の」という言葉がありますので、Bは、真実ではない偽りの内容が入ります。また、この1文には、「それ」という指示語がありますので、1の(1)の解法ポイントに従って、必ず前の文を確認します。すると、前の1文には「本当に必要な情報から遮断された彼らは、実態のない『敵』に対する恐怖に支配され、判断力を失い、何も考えず『掟』にしたがってさえいけば安全だと信じこんでいた」とあります。ということで、その直後の「それ」が指す内容は、「安全だと信じ込んでいた」こととなりますので、Bには、「安全」と似た表現の「平和」が入ることになります。

(2) この設問で問われている、語学力を身につけることの利点は、主に本文(III)の文章で述べられています。特に、11ページ2行目から4行目にかけて以下のような内容が書かれています。

「発信や不特定多数の人との意見交換、ネットワークづくりなども、英語が読めればいっきに世界レベルに拡大する。ニュース1つとっても、日本の新聞やテレビを見るのではなく、世界中の新聞やテレビ番組を比べられるからだ。」

以上の内容から、

- ① より多くの人々との意見交換が可能になること
- ② 日本と世界のニュースを比べられるようになること
- ③ 日本人との考え方の違いに気づけること

などが述べられています。以上の①～③の内容を、少ない文字数で簡潔にまとめる力を試しているのがこの設問です。

本文（Ⅱ）の文章も、色々な方法でニュースをチェックすべきという内容があり、本文（Ⅲ）と一定の関連があるので、解答に取り入れても構いません。

（3）採点基準は以下の①～⑤の5項目^{ごうもく}です。この基準に沿った作文が書けていたかどうか、各自で確認をしてみましょう。

☆解法のポイント☆

- ① 情報にまどわされてしまった経験か、情報により社会が混乱した事例を述べている。
- ② ①を防ぐための対策を述べている。
- ③ ①・②の主張が自身の体験や、本文・「図」の資料に基づいている。
- ④ 作文の最後に、主張のまとめとなる表現がある。
- ⑤ 誤字・脱字^{だつじ}・文章の不備がない。（誤字・脱字・文章不備があれば1カ所につき1点減点）